



バラの会

本田 みえ
議員

▼資源ごみ分別収集の促進について

Q 現在の状況、課題、目標はどうか。
A 平成二十六年度の収集量は、缶が百六十五トン、瓶が四百二十九トン、ペットボトルが百四十一トン、プラスチック製容器包装が二百二十一トン、紙製容器包装が三十八トン、古紙類が三百八十三トンであった。拠点回収では婦人会、町内会など九団体の協力を得て古紙類百七十五トンを回収している。廃品回収では子供会など九十四団体が実施し、古紙類や空き缶など六百四十八トンを回収している。島原市のリサイクル率は二十一・二％で県内では上位にあるが、可燃ごみに資源ごみの混入が見られるので、更なるごみの分別、減量化の周知に努めていきたい。

▼EM菌の活用について

Q EM菌を家庭で利用したり、河川等の浄化に取り組んでいる団体もあるが、市内における配布状況はどうか。
A EM菌発酵液を環境課でつくり、有明支所と旧島原市内の七カ所の各地区公民館において配布している。

▼いじめ問題について

Q いじめ問題の深刻化により、アンケートの内容が見直された結果、認知件数がふえたという報道があるが、島原市における状況と対策はどうか。

A いじめの認知件数については毎年、文部科学省による調査を行っている。二十六年度の調査実施後、初期段階のいじめや、短期間で解消した事案も含めて再調査するよう国から指示があり、その結果、本市では二十四件から六十三件に増加している。いじめは早期発見、早期対応が第一だと考えており、PTAや地域と連携して各学校で取り組んでいる。

▼島原城の運営について

Q 島原城でシルバー人材センターから派遣されて働いている方の中には、県が定める最低賃金を下回る金額で働いている方がいるようだが問題はないのか。どのような雇用形態になっているのか。

A 業務委託先であるシルバー人材センターと会員の間には法律上の雇用関係はなく、配分金としてシルバー人材センターから会員に支払われている。持ち場によって仕事内容の違いはあると思うが、内容を確認して精査してみたい。

【その他の質問項目】

◇福祉医療費の取り扱いについて



実践クラブ

馬渡 光春
議員

▼島原市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

Q この戦略にかける市長の決意は。
A 人口減少に対する危機感を市民全体で共有し、市民一人一人がみずからの問題として取り組んでいくため、目標や具体的な施策を戦略としてまとめた。同時に平成四十七年に人口四万人を維持することを目標とする島原市人口ビジョンの取り組みも開始している。今回の策定を契機に、市民一丸となって島原再生の取り組みを進めていく。

Q 戦略における島原ならではの特色ある施策はどのようなものがあるのか。

A 湧水を島原市全体のブランドイメージとして位置づけ、観光客誘致等を一元的に担う組織の設立、島原鉄道北目線の存続や交流人口の拡大に向け、かつて島鉄で活躍した一号機関車をモチーフにした観光列車の導入、儲かる一次産業をつくるための取り組みなどを盛り込んでいる。

Q 施策実施のための財源確保についてはどうか。

A 国の交付金の活用を検討していく。

▼島原市のキリシタン遺産について

Q 県は「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録を目指しているが、本市におけるキリシタン関連の史跡にはどのようなものがあるのか。
A キリシタン関連史跡として、県指定文化財の「まだれいな銘キリシタン墓碑」のほか、九件の市指定文化財、弾圧による殉教の史跡「今村刑場跡」などがあり、島原城には貴重な史料や墓碑等を多数展示している。

Q 本市の史跡は世界遺産登録を目指す構成遺産には含まれていないが、積極的に関わっていくべきではないか。
A 構成遺産である南島原市の原城、日之江城へは島原を通って行くので、島原城のキリシタン史料館へも多くの方が来られるようPRしていきたい。

▼災害避難訓練について

Q 十一月に実施された①有明地区における地震発生を想定した訓練、②安中地区における溶岩ドーム崩落を想定した訓練のそれぞれの内容と評価は。
A ①関係機関も含めて約九百名の参加があった。避難所への案内不足や緊張感不足などの反省点があった。②初めて住民主導で実施された溶岩ドーム崩落の避難訓練であり、関係機関を含めて約五百名の参加があった。